

【 復活のトロパリ 第7調 】

ハリスト スか みよ、なんぢ はじゅう じかに てしを
 神 爾 十 字 架 死

ほろぼ し、と うぞく のた めに らくえんを ひ開
 滅 盗 賊 の 爲 楽 園 開

ら き、けい こう ぢよの かなしみを なぐさ
 攜 香 女 悲 慰

め、しとに なんぢが ふくか つして、せ かせ
 使 徒 爾 復 活 世 界

いにおお なる あわれ みを たまいしをつたえ
 大 憐 賜 傳

させたま えり。
 給

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしく どうざ なるもの、ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにして しんちなる ハリストスの えきしゃ、せい
 實 神 智 役 者 聖

なるしんに えられたる ふえ、ハリストの あい
 神 撰 笛 愛

にみちた る うつわ、わがくにの こう
 満 器 我 國 光

しよ うしゃ、あしとしゅきょうせい ニコライ
 照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのた め、および
爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいのた めに、いのちをたもうせい
全 世 界 爲 生 命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
三 者 祈 給 え。

【 日本の亜使徒ニコライの 第4調 】

こうえいはちちとこ と せいしんにき
光 榮 父 子 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコラ イよ、わが
成 聖 者 亞 使 徒 聖 我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾 初 我 國 於 己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストの
外 來 者 知 れ ども、ハリストの

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことな し、かれらにか
屬 神 子 爲 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストのきょうかいをたて
 恩寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今 此 教 會 爲 祈
 たまえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

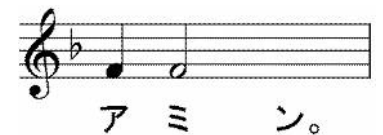
【 復活のコンダク 第7調 】

いまもいつもよよに、アミン。
 今 何 時 世 世
 しのけんはすでにひとびとをとらうるあた
 死 權 已 人 人 捕 能
 わず、けだしハリストはくだりてそのち力
 蓋 降
 からをやぶりてほろぼしたまえり。ぢご
 敗 滅 給 地 獄
 くはしばられ、よげんしゃはどうしんによろ
 縛 預 言 者 同 心 喜
 こびてよぶ、きゆうせいしゅはしんにおる
 呼 救 世 主 信 居



司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行なう者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生
 神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、



【 聖三祝文 】



よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。こうえいはちとことせいしんにきす、いまもいつもよよに、アミン。せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第7調 】

司祭) ^{つつし き} 慎みて聴くべし、^{しゅうじん へいあん} 衆人に平安、

誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅ そのたみ ちから たま} プロキメン、主は其民に力を賜い、^{しゅ そのたみ へいあん ふく くだ} 主は其民に平安の福を降さん、

しゅ は その た み に ち か ら を た ま い 、 しゅ は
主 其 民 力 賜 主
その た み に へ い あ ん の ふ く を く だ
其 民 平 安 福 降 だ
さ ん。

誦經) ^{かみ しょし しゅ けん こうえい せんき しゅ けん} 神の諸子よ、主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、

しゅ は その た み に ち か ら を た ま い 、 しゅ は
主 其 民 力 賜 主
その た み に へ い あ ん の ふ く を く だ
其 民 平 安 福 降 だ
さ ん。

誦經) ^{しゅ そのたみ ちから たま} 主は其民に力を賜い、

しゅ は その た み に へ い あ ん の ふ く を く 降
主 其 民 平 安 福 降
だ さ ん。

【 アポστόロス 使徒經 285 端 ティモフェイ書 4 章 9～15 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが^{たつ} ティモフェイに^{ぜんしょ} 達する^{よみ} 前書の讀、

司祭) ^{つつし} 謹^きみて聽くべし、

誦經) ^こ 子ティモフェイよ、^こ 此れ^{まこと} 信^{まった} なる^う 全^{ことば} く受^けくべき^{なり} 言^{なり} なり。蓋^{けだしわれら} 我等は^{これ} 此^{ため} が爲^{ろう} に^{そしり} 勞^{して} 謗

^う を受^く、^{すなわちい} 乃^{かみ} 活^{のぞみ}ける^よ 神^{かれ} に^{ことごと} 望^{ひと} ある^{こと} に^{しんじゃ} 困^{きゆうしゆ}りて^{なり} たり。彼^{もつ} は^{かる} 悉^{すなわちなんぢ} くの^{なり} 人^{なり}、特^{なり} に^{なり} 信^{なり} 者^{なり} の^{なり} 救^{なり} 主^{なり} な

り。爾^{なんぢ} 此^{こと} 等^{いまし} の^{かつおし} 事^{ひと} を^と 戒^し め^と 且^し 教^し え^わ よ。人^{なんぢ} 爾^と の^し 年^と 少^し き^わ を^か 以^{もつ} て^{かる} 輕^{すなわちなんぢ} ん^{なり} ず^{なり} べ^{なり} か^{なり} ら^{なり} ず、乃^{なり} 爾^{なり}

^{ことば} 言^{おこない} に、^{あい} 行^{しん} に、^{しん} 愛^{しんこう} に、^{けつじょう} 神^{おい} に、^{しんじゃ} 信^{もはん} 仰^な に、^{とくしよ} 潔^{かん} 淨^{なり} に^{なり} 於^{なり} て、^{なり} 信^{なり} 者^{なり} の^{なり} 模^{なり} 範^{なり} と^{なり} 爲^{なり} れ。讀^{なり} 書^{なり} と、^{なり} 勸^{なり}

^ゆ 諭^{きょうくん} と、^{つと} 教^わ 訓^{きた} とを、^ま 務^{なんぢ} め^あ て、^{おんし} 我^{よげん} が^よ 來^{ちようろう} る^{あん} を^{なり} 俟^{なり} て。爾^{なんぢ} に^{なり} 在^{なり} る^{なり} 恩^{なり} 賜^{なり} 、^{なり} 預^{なり} 言^{なり} に^{なり} 由^{なり} りて、^{なり} 長^{なり} 老^{なり} の^{なり} 按^{なり}

^{しゆ} 手^{もつ} を^{なんぢ} 以^{さづ} て、^{もの} 爾^{ゆるかせ} に^{なか} 授^{これら} け^{こと} ら^{しねん} れ^{もつば} し^{これ} 者^{つと} を^{なり} 忽^{なり} に^{なり} する^{なり} 勿^{なり} れ。此^{なり} 等^{なり} の^{なり} 事^{なり} を^{なり} 思^{なり} 念^{なり} し、^{なり} 專^{なり} ら^{なり} 之^{なり} を^{なり} 務^{なり} め

よ、^{なんぢ} 爾^{じょうたつ} の^{しゆう} 上^{あらわ} 達^{ため} が^{なり} 衆^{なり} に^{なり} 顯^{なり} れ^{なり} ん^{なり} 爲^{なり} なり。

(比較用 口語訳) 子テモテよ、これは確実で、そのまま受け入れるに足る言葉である。わたしたちは、このために勞し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。これらの事を命じ、また教えなさい。あなたは、年が若いために人に輕んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、輕視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。

【 アリルイヤ 主日第7調 】

司祭) ^{なんぢ} 爾^{へいあん} に^{なり} 平^{なり} 安^{なり}、

誦經) ^{なんぢ} 爾^{しん} の^{なり} 神^{なり} にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、





ア リル イ ヤ 。

誦經) ^{しじょうしゃ しゅ さんえい なんぢ な うた び かな} 至上者よ、主を讚榮し、爾の名に歌うは美なる哉、



ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



ア リル イ ヤ 。

誦經) ^{なんぢ あわれみ あさ の なんぢ まこと よ の び かな} 爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉、



ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



ア リル イ ヤ 。

司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ し} 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の淨き光を輝かし、我が思

^{ねん め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} 念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ} を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ

^{ところ おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} 所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん} よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善

^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世に、アミン。)

【 ^{エヴァンゲリオン} 福音經 ルカ福音書91端 18章18~27節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



なんぢの し んにも 。

司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時イイス エリホンに入りて過ぎ行けり。視よ、ザクヘイと名づくる者あり、税吏の長にして富める者なり。イイスの如何なる人たるを見んと欲したれども、人の衆きに困りて見るを得ざりき、身の長短ければなり。乃趨り前みて、彼を見んため無花果樹に升れり、彼此の旁を過ぎんとすればなり。イイス此の處に來りし時、仰ぎて、之を見て曰えり、ザクヘイよ、速に下れ、蓋我今日爾の家に寓るべし。彼急ぎ下り、喜びてイイスを接けたり。人皆之を見て、怨みて曰えり、彼往きて罪人の客と爲れり。ザクヘイ立ちて、主に謂えり、主よ、我所有の半を以て、貧しき者に施さん、若し誣いて人より收りしことあらば、四倍にして之を償わん。イイス彼に謂えり、今日救は此の家に臨めり、此の人もアブラアムの子なればなり。蓋人の子は亡びし者を尋ねて救わん爲に來れり。

(比較用 口語訳) イエスはエリコにはいって、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見るができなかった。それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎え入れた。人々はみな、これを見てつぶやき、「彼は罪人の家にはいつて客となった」と言った。ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。





※聖体礼儀③（金ロイオアン聖体礼儀）へ